

【特別支援学校用】

令和6年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立金立特別支援学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点取組に対しての成果指標はほぼ達成できており、各項目に対しての評価は「業務効率化の推進と時間外在校時間の削減」だけがB評価で、それ以外はすべてA評価となった。</li> <li>本校は障害の程度が重い児童生徒が多く在籍しており、教職員一人一人の専門性をどのように高めていくかは、今後も学校としての大きな課題である。</li> <li>交流及び共同学習や校外学習、就業・施設体験等での学びを深めることができるように、引き続き取り組んでいく必要がある。</li> <li>時間外在校時間の削減を一層図るとともに、その成果が職員のメンタルヘルスに良い影響を及ぼすことを目標としている。</li> </ul>
2 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の一人一人の状況(障害の状態や発達段階、特性)に応じた教育を実践する。</li> <li>児童生徒が、「明るく」「正しく」「たくましく」生きていく力を育成する。</li> </ul>
3 本年度の重点目標	<p>「つなげれ未来 — 明るく、正しく、たくましく」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒の主体性を尊重しながら、個に応じた教育を充実させる。</li> <li>②自立と社会参加に向けて、児童生徒の夢や希望を大切に教育を充実させる。</li> <li>③健康・安全教育を進めるとともに、思いやりや豊かな心を育む教育を充実させる。</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○児童生徒の実態把握を行い、学習指導要領の各教科等の内容を踏まえた学習内容や目標を設定し、学力の定着につながる授業ができたと回答する職員が75%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒に関わる複数の職員で客観的な実態把握を行う。</li> <li>学習指導要領に示された各教科の内容を踏まえた学習内容・目標を設定して個別の指導計画を作成し、個に応じた指導支援を行う。</li> <li>評価に基づいて、学習グループでPDCAサイクルにより授業を見直し、授業改善につなげる。</li> <li>個人懇談や面談時に学習の内容や児童生徒の成長や様子について、説明を行う。</li> </ul>					教務部
	○個々の児童生徒の実態に合わせてICT 利活用教育の充実	○アンケート調査でICT機器を利活用し、効果的な授業の促進ができたと回答する職員、保護者が85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の実態に合わせて、ICT利活用を推進する。</li> </ul>					学習・情報部
	○児童生徒の主体性を尊重しながら、個に応じた進路指導の充実	○進路についての意見を十分に聞き、適切な指導がなされていると回答する保護者が75%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員を対象とした進路指導研修会や保護者を対象とした進路説明会を行う。</li> <li>個に応じた資料を必要に応じて作成し、職員、保護者へ提供する。</li> </ul>					進路指導部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○心の教育活動や生命を尊重する教育に取り組むことができておりと回答する職員が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の呼称等、児童生徒への職員の言動に関する意識向上を図るため、教務部・生徒指導部で連携し、アンケート調査を行う。(教務部・生徒指導部)</li> <li>児童生徒会活動の一環として、嬉しかったことや友達の良い所をカードに書き出し、「えがおの木」に貼り付ける活動を行う。(生徒指導部)</li> </ul>					教務部 (人権・同和教育担当) 生徒指導部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等)のための取組、事案対処等)について、取り組むことができていると回答する職員が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活調査を毎月行う。</li> <li>いじめアンケートを年間2回実施し、教職員間で情報共有する。</li> <li>児童生徒会役員会で、毎回、児童生徒一人一人が頑張っていることを取り上げ、互いのことを尊重し、認め合う雰囲気を作っていく。</li> <li>いじめに対する教職員の意識啓発のため、研修、会議を年間1回以上行う。</li> </ul>					生徒指導部
	●◎児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒75%以上 ●◎「将来の夢や目標、生活していく上での楽しみをもっている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業等の中で児童生徒のよいところを評価する場面を設定したり、成果を披露する場を設けたりする。</li> <li>将来の夢や目標、楽しみに繋がるような授業内容を工夫し、児童生徒の好きなこと、得意なことが増えるように授業づくりを進める。</li> </ul>					自立活動部 研究部
●健康・休づくり	●望ましい生活習慣の形成	●「児童生徒の歯と口の健康意識を向上させる取り組みができており」と回答する保護者、職員が75%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科健診前アンケートを実施し、困りごとや受診状況を把握する。</li> <li>歯科健診時、結果と指導ポイントを確認し、治療が必要な児童生徒本人・保護者・職員に伝え、受診勧奨を行う。</li> <li>定期健診の結果や日常の歯磨きの様子や状況などから口腔ケアの課題を把握し、課題に即した保健指導や巡回を各1回以上、学校歯科医や職員、家庭等と連携して行う。(歯磨き担任引継ぎカード作成など)</li> <li>保健だよりや掲示物に歯科保健指導に関する記事を掲載。(校内での歯磨き指導取り組みの工夫の紹介)</li> </ul>					保健部
	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○巡回相談等におけるセンター的機能報告の文書案内や、校内研修及び公開研修等を実施し、専門性の向上につながったと回答する職員が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外支援として巡回相談の実施、電話相談や学校見学等の対応を行う。</li> <li>校内支援として教育相談、他校務分掌との連携協力、他特別支援学校の巡回相談や専門家派遣を行い、教職員の専門性の向上を図る。</li> <li>公開研修会の計画や案内をし、専門性向上のための理解啓発を図る。</li> </ul>					相談支援部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○「定時退勤日の取り組み、また長期休業中の休暇取得によりリフレッシュできた」について肯定的な回答をした職員が75%以上 ○月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合4%以下 ○児童生徒下校後の執務時間内を集中して業務に当たることができたという職員の割合が75%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事の削減と簡素化、準備の効率化等に取り組む。</li> <li>月1回の定時退勤日と月3回の定時退勤推進日について引き続き推奨・実施していく。</li> <li>休暇を取得しやすいように、夏季休業中に7日間の学校閉庁日进行。</li> <li>執務室(職員室)では、休憩時間後の業務開始時に15分間の無言集中タイムを設け、一人で集中して作業できる環境を作る。</li> <li>会議・打合せは原則として60分以内に終了するよう、会議の主催者・参加者で意識を共有する。</li> </ul>					管理職

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--